

幼児期から10歳台前半ぐらいまでの特に男の子が、とくべつ怪我をしたわけでも無いのに、下肢の付けね(股関節)を痛がり足を引

きずって歩く(疼痛性の逃避跛行・痛みのために、びっこをひく)という心配され

て受診されることがよくあります。昼間は跳びまわって元気に遊んでいたのに、ころんでもないし原因が分かりませんと、ほとんどの親御さんがおっしゃいます。よくお話を聞いてみますと、運動会の練習をしますとか遠足でしたとか、最近サッカーや野球を始めましたとかがわかることもあります。しかし、やはり明らかかな外傷は無いようです。

そういう時にまず考える疾患に「単純性股関節炎」という病気があります。子供の股関節痛のなかでは日常診

療において比較的よく見られる病気で、レントゲン上には、時に股関節に炎症の結果、水が溜まった所見がわかる場合もありますが、特に異常の無いことの方が多いです。

原因ははっきりしませんが、細菌やウイルスの感染ではありません。昼間走り回って遊んだとかスポーツをしたとか、普段よりよく脚を使ったと

子供の股関節痛

主に幼児期から10歳台前半ぐらいまで

たなか整形外科医院 田中邦彦

若松区高須東四丁目2-43

に大事なことなのです。というの、同じような症状で発症して、関節の破壊や変形などの重大な後遺障害を残してしまう病気もあるからです。

まず早急に鑑別し治療が必要なものは、「化膿性関節炎」や「骨髄炎」などの細菌感染による炎症性疾患です。進行すると関節が破壊される怖い病気です。扁桃腺炎など

きに起ることが多いようです。治療は症状が激しい場合は入院して安静にし経過を見たり消炎鎮痛剤を投与する場合もありますが、大部分は必要

以上に歩いたりせずにおとなしくして経過を観察していけば、数日から数週間のうちによくなりま

くるときは必ず疼痛性の逃避跛行をしております。元気もあまりありません。これに對し痛くな

さそうな跛行で元気もよい場合は一先天性股関節脱臼...を考えます。多少疼痛性の跛行は見

るもの元気そうなる男の子であれば「ペルテス病」という大腿骨の骨頭が変形し長期間の治療を要する病気を考えます。それが肥満した男の子であれば「大腿骨頭すべり症」という大腿骨の骨頭がずれる病気を念頭に置きます。もちろんここで

上げた病気がすべてではありません。この他にも股関節痛で発症する病気がいろいろあります。また、跛行にもいろいろなタイプや原因があります。股関節の病気が原因で膝関節の痛みを訴える場合

や、痛がってなくても跛行を呈する場合もありますので、子供の跛行にお気付きの際は、最寄りの整形外科に受診されて下さい。